

野党案

インターバル規制

長時間労働が進むと、退勤から次の出勤までの
休息時間がどんどん短くなってしまいます。
この休息時間（インターバル）の確保を法律で
強制することで、長時間労働の連続をなくし、
休む時間や自分のための時間をつくることで
きます。



時間管理

企業が労働時間を虚偽申告させたり、持ち帰り
残業をさせたりすると、せつかくの時間規制が
守られず、サービス残業が増えてしまいます。
そこで、使用者にきちんと労働時間を把握して
記録することを罰則付きで義務付けます。

上限規制

長時間労働を防止するために最も有用な
方法が残業時間の上限を設定することです。
しかし、政府の上限規制には、以下の
ような「抜け道」がセットになっていて、
上限規制をかける意味がなくなってしまう
のです。



政府案

裁量労働制の大幅な拡大

上限規制の例外の一つです。
いくら働いても、労働時間は一定の時間と
みなしてしまう制度で、たとえば 12 時間
働いても 8 時間とみなすこともできます。
政府は、効率よく働けば労働時間を短くで
けるといいますが、仕事はやればやるだけ
新しく降ってくるので、それは幻想です。



高度プロフェッショナル制度の新設

これも上限規制の例外の一つで、いくら
働いても残業代は支払われません。
対象となる労働者は、専門職で、年収
一千万円程度の人限定と言われて
いますが、経団連は、年収 400 万円にす
べきと言っており、近い将来対象労働者が
増える危険があります。

